

2017年11月24日

行動経済学会第11回大会サテライト・ワークショップのお誘い

行動経済学若手ワーキンググループ

拝啓

秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、来る12月9日、10日に開催されます行動経済学会第11回大会に先立ちまして、大会前日の12月8日(金)に有志によるワークショップを企画いたしました。このワークショップは、行動経済学に関心のある研究者間で、活発な議論を通じてお互いの興味や知見を共有し、行動経済学に対する理解を深めることを目的に開催されます。登壇いただく講演者による問題提起を基調にして参加者全体で議論を積み重ね、各々の問題意識の掘り下げと新たな視点への気づきが芽生えるような会にしたいと考えております。

学会直前のご多忙な時期とは存じますが、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。また、関係各位への周知等にもご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

敬具

1. 目的

活発な議論を通じてお互いの興味や知見を共有し、行動経済学に対する理解を深めることを目的とする。

2. 行動経済学若手ワーキンググループ

黒川博文(同志社大学)、高阪勇毅(福山大学)、後藤晶(山梨英和大学)、佐々木周作(慶應義塾大学)、田村輝之(慶應義塾大学)、林良平(東海大学)、森知晴(立命館大学)、山根承子(近畿大学)

3. 日時・場所

同志社大学今出川キャンパス 良心館4階 RY425 教室 (50名収容)

2017年12月8日(金) 15:00~17:00 (14:50 受付開始)

4. 基調講演

テーマ: 行動を規定するものは何か

司会: 林良平(東海大学)

登壇者: 高橋泰城氏(北海道大学) 「行動を規定するものは何か: 欲求、学習(習慣)」

中村隆文氏(釧路公立大学) 「行動を規定するものは何か: 意志と反省」

5. 趣旨

行動経済学の魅力のひとつには、データから明らかになる人々の行動の動機に、意外さや共感を覚えることが挙げられます。つい先延ばししてしまう日常の悪習を、時間選好の仮説を使って、グラフやデータで示されると、あたかも自分の内面を分析できているように感じます。ギャンブル行動をリスク選好で納得し、ヒューリスティクスで日常の非合理行動に納得します。そして、「なんだ、自分も他の人と同じように行動しているだけなのか」と安心する反面、「ではこの悪習は、果たして自分の責任なのだろうか、それとも何か自分以外のもののせいなのだろうか」と新たな疑問がわきます。

そこで、本ワークショップでは、「行動を規定するものは何か」と題して2名の講演者に冒頭問題提起をしてもらいます。本ワークショップのメイン・セッションは後半の議論です。聴衆参加型の議論を通じて、それぞれの視点・立場から、自由闊達に行動の捉え方をご披露いただき、行動を規定するものへの理解を深めていきたいと考えております。行動を取り巻く、環境、心、遺伝や価値観、偶然など、ご自身の考え方、研究にあたっての視点などをご披露いただけますと幸いです。

6. 対象

- 行動経済学に関する研究を行っている研究者・学生。
- 身分や年齢、経歴は問いません。お気軽にご参加ください。

7. 参加方法

- 当日会場へお越しください。
- 本ワークショップでは、聴衆も自発的に議論に参加できます。基調講演のテーマに関連して予め述べたい主張等がある方は、司会（林：pey@ryohei.info）までご相談いただきますとスムーズです。

8. 会場(http://law.doshisha.ac.jp/to-students/files/Doshisya_174.pdf より抜粋)

